

資料を生かして呼びかけよう

新潟市立下山小学校 戸田 道治

1 目指した子どもの姿

東京書籍「新しい国語 6年」に「資料を生かして呼びかけよう」がある。そこには環境問題に関わる文章が例示されている。例文の後、環境問題に関わる資料がある。例文を読み取った後、資料を利用して各自で文章を書いてみる流れになっている。

しかし、例文も資料も、環境問題に限定されている。本当に各自の興味関心にそった題材になっていない。受動的な学習から主体的な学習へ転換するには、本当に関心をもてる題材を、相手意識をもって書くことが大切である。

そこで、単元の前半は教科書教材で資料がもつ効果や段落構成について学ぶ段階とした。後半は学んだことを生かして自分が関心をもっている事柄について書くという単元構成にした。題材は環境問題に限定せず、問題意識を広くもたせ図書館とも連携を図った。その方が主体的に課題を見付ける力が付き、さらにそのための資料を見付ける力や書く意欲に結び付くからである。

途中で友達と相談したりアドバイスしたりできる関わり合いの場面を設定した。これを踏まえて、自分が関心をもった事柄について同年代の友達に共感してもらえるように伝わりやすい文章を全員が書き上げることを目指した。

2 主な授業の流れと具体的な手だて

(1) 授業の主な流れ

第1次 教科書教材から学ぶ・・・クラス全体で

- ア 写真、図、グラフのそれぞれの良さは何か。
- イ 段落をどう構成しているか。
- ウ 教科書の資料は、どのように使えるか。

第2次 編集会議を開く・・・グループで

- ア みんなに知らせる題材は何がふさわしいか。(友達と編集会議を開く。)
- イ 3つの資料は、何を選ぶか。

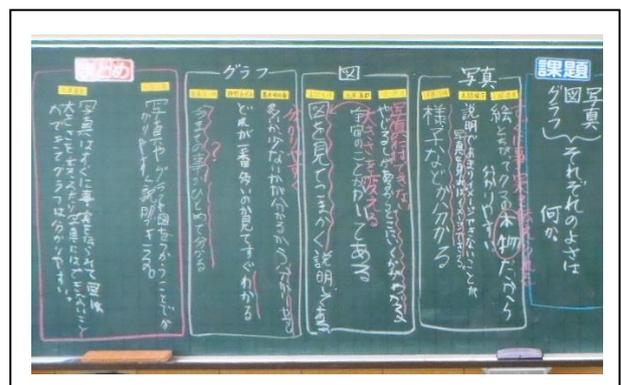
第3次 書き上げる・・・個人やペアで

- ア 学んだ事を生かして書いているか。
- イ よいと思った作品はどれか。

3 指導の実際

(1) 〈写真〉〈図〉〈グラフ〉の有効性について

- ・ 写真は、言葉による説明より実際の様子がよく分かる。
- ・ 図は、矢印などの記号を使うことで、写真にでき



ないことができたり分かりやすいことがある。また、省略することができ、伝えたいことだけを伝えることができる。

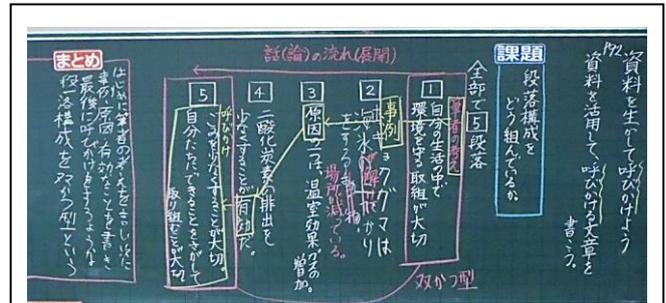
- ・ 数値に関わることをグラフで分かりやすく示すと、説得力がでる。

→ **自分が書くときにも、3つの異なるタイプの資料を使おうという意識付けができた。**

(2) 段落構成について

- ・ 初めの段落と最後の段落は、似た内容になっている。(双括型)
- ・ 『なか』の段落で、事例や原因、有効策等を書いている。

→ **自分が書くときにも、双括型で書こうという意識付けができた。**



(3) 編集会議

図書室で関心をもてる本を見つけて持ち寄った。グループの中で各自が選んだ題材を発表し合い、発表にふさわしい題材か否かを確認めた。

【 題材例 】

- ・ エネルギー問題について (化石エネルギー, 原子力エネルギー, 再生可能エネルギー等)
- ・ 消費者問題について (広告にだまされないために)
- ・ 水不足問題について
- ・ 農業の後継者問題について
- ・ インターネットやオンラインゲームの危険性について
- ・ 資源のリサイクルについて
- ・ 乗り物と環境について など



(4) 書き上げる

編集会議では友達からアドバイスもらったことで、子どもたちは自信をもって書き進めることができた。文型や段落構成等、教科書教材で学んだことが見通しとなり、それらを生かして書くこともできた。必要な場合は、資料をスキャナで読み取り、印刷した上で作文に貼り付けて使用した。

また、全員がふさわしい題材を見つけて書けそうな見通しが立ったことから、学習の途中で、図書室に置いて全校児童に読んでもらおうというめあてが決まった。冊子にする都合で、作文は横書きにすることとした。



【 作品例 】

乗り物を選んで環境の改善を

私は、地球の環境を守るために、自動車などの、燃料を多く使い、二酸化炭素の排出量が多い移動手段は、利用をおさえるべきだと思います。

資料1を見て下さい。資料1

一人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量は、自家用車が一番多いことが分かります。それに対して、バスや鉄道など、一度に多い数の人を運ぶことのできる乗り物は、二酸化炭素の排出量が少ないです。

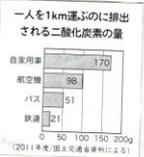
資料2を見て下さい。資料2

これは電気自動車の写真です。ガソリンを燃料にして走る自動車による移動は、非常にたくさんのエネルギーを使っています。ですが、ガソリンエンジンと電動モーターの両方で動くハイブリット車がもっと普及すれば、ガソリンをあまり使わない、あるいは全く必要としない自動車による移動が可能になります。

また、もっと簡単な方法もあります。資料3を見て下さい。資料3

家から駅までは自家用車で移動し、駅からは公共交通機関を利用する、「パーク・アンド・ライド方式」という方法もあります。環境の改善もできる上、渋滞の解消にも役立つと期待されています。

このようなことから、自家用車よりも、バスや鉄道などの、公共交通機関を利用するとよいと思います。



移動手段	排出量 (g)
自家用車	170
航空機	98
バス	51
鉄道	21



4 指導を終えて

(1) 成果

- ① 自分が関心をもてた題材で書くことができたので、ねらいどおり、全員が意欲をもって書くことができた。
- ② 書くための題材選びでは、友達との関わり合いを取り入れたことで、互いの題材や使う資料がヒントになったり新たな気づきになったりした。
- ③ 教科書教材から書き方（文型や段落構成）を学び、それを生かして書くことができたことで、充実した達成感を味わうことができた。
- ④ 全員が明確な見通しをもち始めたことで、発表の対象が学級内から全校（図書室）へと広がり意欲が高まった。

(2) 課題

題材を自由にさせることで、次のような問題があった。

- ① 友達に影響を受けたことで、同じ題材を同じ書籍を元に書く子どもが出た。その場合、同じ資料を使い、似通った作品になった。
- ② 書籍によってはグラフ等数値を示す資料がなく、写真や図のみになってしまった。説得力に欠ける資料提示となった。